

ABO 血液型不適合間腎移植における前処置としての 血漿交換療法の有用性

隅 智子*・高木茂樹*・中川星明*・岡田昭次*
森 知昭*・五藤輝彦*・幅 俊人**・富永芳博**
打田和治**
名古屋第二赤十字病院血液浄化センター*
同移植外科**

【目的】生体腎移植において、ABO 血液型不適合症例に対し、前処置として二重濾過血漿分離交換法 (DFPP) を施行し、各種パラメータの変化を検討した。

【対象及び方法】ABO 型不適合の生体腎移植を希望したレシピエント 19 名に対し、各々 4 回 (手術前日、前々日、及び 4、6 前日) DFPP を施行した。手術前日及び、前々日は血液透析回路と DFPP 回路を直列に接続し、同時に施行した。

【結果】抗 A 抗 B 抗体価に於いては、DFPP 前最大 1:256 の症例を含め、全ての症例で目標とした 1:8 以下に減少した。IgG は、平均 81.3% 除去され、IgM は測定感度以下に減少した。血清総蛋白、アルブミン及び、血中フィブリノーゲンは各々、平均 6.80~3.87 g/dl, 3.72~3.34 g/dl, 309~104 mg/dl と減少を認めた。凝固系パラメータは、僅かに延長を認めたが正常範囲内であった。

【結論】ABO 型不適合間腎移植において前処置として 4 回 1 クールの DFPP を施行し、抗 A 抗 B 抗体価を十分減少し得た。しかし、各種グロブリンの大量除去による血清総蛋白の低下が原因と思われる DFPP 施行中の低血圧症状を経験した。

糖尿病性腎不全患者の ASO に対する

LDL アフェレシスの分析

佐藤元美・森田弘之・天野 泉
社会保険中京病院透析療法科

【目的】今回我々は、ASO を合併した糖尿病性腎不全患者に対して、LDL アフェレシス (LDLA) を施行し、その効果を臨床面および血液学的に検討した。

【方法】8 例に対し LDLA を 3~10 回施行した。サーモグラフィーにより下肢の阻血領域・程度を観察した。また、吸着カラム流入前後の血漿を採取し、 β_2 -ミクログロブリン (β_2 -M)・ペントシジン・過酸化脂質を測定した。

【結果】サーモグラフィーにおいて、LDLA 後に下肢皮膚温の上昇が認められた。吸着カラム前・後では、

β_2 -M・ペントシジンに有意な変化は認められず、過酸化脂質が有意に低下した。

【結語】LDLA は、高脂血症の程度にかかわらず、疼痛や下腿壊死の進行する透析患者に対し、有用な治療法の 1 つと考えられた。

血液事業とアフェレシス

神谷 忠

愛知県赤十字血液センター

凝固因子製剤による HIV 感染の問題に端を発し、血漿分画製剤の原料血漿を国内の献血者から確保することが国の決定でなされ、日本赤十字社 (日赤) では 1986 年以降全国の血液センターで成分献血の実施を開始した。

現在、原料血漿確保目標量は 77 万 L/年であるが、次年度からは 80 万 L/年に増量される予定になっている。凝固因子製剤については 1992 年以降、国内自給が達成されているが、アルブミン、免疫グロブリン製剤などについては、まだ 25%~30% の達成率にすぎない。この成分献血の普及により、血小板製剤については約 95% は成分採血由来の製剤が供給されるに至っている。

また、最近では採血装置の進歩により、白血球の Contamination を可及的に減少させて採血することも可能となってきている。

本講演では、我々の血液センターにおける成分採血の現況と頻回成分献血者の検査成績の状況について述べる。

東海地区アフェレシスの現状

坂下恵一郎

東海透析技術交流会

今回、第 1 回日本アフェレシス学会中部地方会開催に当たり、東海 4 県のアフェレシスの現状を調査したので、その結果を報告する。

アフェレシス実施施設数は 178 (愛知 77, 岐阜 34, 三重 23, 静岡 44), 種類別では、血漿交換 102, 活性炭吸着 75, ビリルビン吸着 82, DFPP 80, クライオ 8, 血漿吸着 78, LDL 吸着 84, ET 吸着 123 であった。アフェレシス実施施設のうち HD ありが 148 (愛知 58, 岐阜 29, 三重 21, 静岡 40) であった。また HD 施設での実施率は愛知 72%, 岐阜 97%, 三重 88%, 静岡 82% であった。

アフェレシス実施スタッフは、臨床工学技士が